

# 福岡県におけるワンヘルスの取組み



福岡県保健医療介護部生活衛生課

# ワンヘルスの経緯(1)

- ・2004年 WCS(野生生物保護協会)  
マンハッタン原則「One World, One Health」制定
- ・2010年 日本獣医師会 活動指針を制定  
「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」
- ・2012年 WMA(世界医師会)とWVA(世界獣医師会)  
ワンヘルス推進の覚書を調印
- ・2013年 日本医師会と日本獣医師会  
ワンヘルス推進のための学術協定を調印

## ワンヘルスの経緯(2)

- ・2015年 第1回WVA-WMA“One Health”に関する国際会議(スペイン)
- ・2016年 第2回WVA-WMA“One Health”に関する国際会議(北九州市)  
ワンヘルスの理念に基づき行動し、実践するための「福岡宣言」  
を採択

# 第2回“One Health”国際会議の様子



リーガロイヤル  
ホテル小倉  
(北九州市)

31か国約600人が参加



# 「福岡宣言」とは

“One Health”国際会議において、人と動物の共通感染症、薬剤耐性菌対策等を含む“One Health”に関する重要な課題について、情報交換と有効な対策の検討を行い、評価すべき成果を収めたことを踏まえ、“One Health”の概念を検証し認識する段階から“One Health”の概念に基づき実践する段階に向けて、医師と獣医師が協力して取り組む4項目からなる。

1. **人と動物の共通感染症** 予防のための情報交換と研究体制の整備
2. 人と動物の医療において重要な**抗菌薬**の責任ある使用
3. “One Health”の**理念の理解と実践**を含む医学・獣医学教育の改善
4. **健全で安心な社会の構築**に係る全ての課題解決のための協力

# 「福岡宣言」及び調印した4団体代表者

第2回 世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議

## 福岡宣言

人類は、地球上の全ての生物と協調し、地球環境を健全に維持する責任を担っている。動物と人間は、互いの知識を持ち、専門的知識を受け、共に定められた範囲を遵守するとともに、人と動物の健康と福祉の維持に際する幅広い領域分野において互いに携わる機会と責任を担っている。

2019年10月、世界獣医師会と世界医師会が、“One Health”の向上のため、また、人と動物の共通感染症への予防、責任ある抗菌剤の使用、教育、臨床及び公衆衛生の向上と協力関係を確立するために、両者が協議し、一体となって取り組むことを合意し、宣言を採択した。

2019年10月、日本獣医師会と日本医師会が、協賛学会を創設するため、国際及び獣医師間の協賛に関する学術情報の共有し、迅速に共有することを目指し、協賛書を採択した。更に、日本獣医師会と日本医師会が、2011年3月に発生した日本大震災における教訓を踏まえ、自然災害などの危機に迅速に対応するため、両団体間の協賛の強化を図ることに決意した。また、両団体間の協賛の強化を図るため、この協賛書締結は、日本全国の地域獣医師会と地域医師会においても達成された。

2019年10月、世界獣医師会、世界獣医師会、日本獣医師会、日本獣医師会が、2015年、スペインのマドリッドで開催された第1回“One Health”に関する国際会議において、第2回目の国際会議を日本で開催した。

世界獣医師会、世界獣医師会はこの協賛の他に、人と動物の共通感染症、動物衛生部等が“One Health”に関する重要な課題について情報交換と有物な協賛の協賛を行うことに関する合意を達成した。

我々は本宣言の成果を踏まえ、“One Health”の機会を確保し、認識する必要性から、“One Health”の機会に基づき協賛の発展に際して協賛の機会を次々、以上のとおり宣言する。

1. 医師と獣医師は、人と動物の共通感染症予防のための情報交換を促進し、協力関係を強化すると共に、その研究体制の整備に向け、一層の連携・協力を図る。
2. 医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する。
3. 医師と獣医師は、“One Health”の概念の理解と実践を含む医学教育および獣医学教育の改善・整備を図る活動を支援する。
4. 医師と獣医師は、健康で安全な社会の構築に係る全ての課題解決のために両者の交流を促進し、協力関係を強化する。

World Veterinary Association  
Secretary General  
Dr. Y. Y. Y. Y.

World Medical Association  
Secretary General  
Dr. Y. Y. Y. Y.

World Veterinary Association  
Secretary General  
Dr. Y. Y. Y. Y.

World Medical Association  
Secretary General  
Dr. Y. Y. Y. Y.



2019年10月、日本獣医師会と日本医師会が、協賛学会を創設するため、国際及び獣医師間の協賛に関する学術情報の共有し、迅速に共有することを目指し、協賛書を採択した。更に、日本獣医師会と日本医師会が、2011年3月に発生した日本大震災における教訓を踏まえ、自然災害などの危機に迅速に対応するため、両団体間の協賛の強化を図ることに決意した。また、両団体間の協賛の強化を図るため、この協賛書締結は、日本全国の地域獣医師会と地域医師会においても達成された。



藏内勇夫 日本獣医師会会長

横倉義武 日本医師会会長

ジョンソン・チャン 次期世界獣医師会会長

ザビエル・ドオー元世界医師会会長

# 福岡県におけるワンヘルスの取組(1)

## “One Health”の経過

- 2012年 世界医師会と世界獣医師会が“One Health”覚書
- 2013年 日本医師会と日本獣医師会が学術協力の協定
- 2013年 福岡県医師会と福岡県獣医師会が学術協力の協定
- 2015年 第1回“One Health”国際会議(スペイン)
- 2016年 第2回“One Health”国際会議(北九州市)で福岡宣言採択

## 福岡県の取組経過

- 2014年 「**共通感染症における医療と獣医療の連携推進事業**」を開始
- 2018年 福岡県“One Health”推進**庁内連絡会議**を設置
- 2019年 福岡県“One Health”**推進協議会**を設置

# 福岡県における“One Health”の取組(2)

## 「共通感染症における医療と獣医療の連携推進事業」(2014年から開始)

### ① 共通感染症発生状況等調査

- ・愛玩動物等における病原体保有状況等を広くモニタリングし、その結果を医療分野に情報提供し、共通感染症のまん延防止に寄与

### ② 共通感染症対策訓練

- ・狂犬病の県内発生を想定した机上訓練、実動訓練等を実施

### ③ シンポジウム

- ・人と動物の共通感染症に関するシンポジウムを毎年開催

# 共通感染症発生状況等調査事業

- 病原体保有状況調査
  - ・福岡県獣医師会から推薦を受けた動物病院において検体を採取し、県保健環境研究所で検査を実施
- アンケート調査
  - ・福岡県医師会、福岡県臨床皮膚科医会及び福岡県獣医師会の協力の上、県内医療機関で調査を実施
- 対象疾病等

	対象疾病	対象	調査期間	調査数（内訳）	結果
病原体調査	食中毒菌による感染症	犬及び猫の糞便	H26-28年度	156検体 (犬87、猫69)	検出率30%弱 検出菌は主に大腸菌
	パストレラ	犬及び猫の 口腔ぬぐい液	H27-28年度	77検体 (犬29、猫48)	検出率50%程度
	トキソプラズマ感染症 猫ひっかき病	猫の血液	H27-28年度	42検体	トキソプラズマ陽性:1件 猫ひっかき病感染疑い:1件
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	マダニ	H26-28年度	135検体 (犬71、猫1、不明2)	未検出
	日本紅班熱	(犬、猫)	H27-28年度	94検体 (犬48、猫1)	未検出
アンケート調査	皮膚糸状菌症	皮膚糸状菌症の 罹患が疑われる 又は 診断された犬及び猫	H27-28年度	動物病院107件 (飼い主等)  医療機関167件 (医師91、患者76)	○動物病院 皮膚糸状菌症の犬16%、猫47%の飼い主に症状有り ○医療機関 皮膚糸状菌症患者が接触した 犬38%、猫54%に症状有り

# もしかして同じ病気？ 人と動物の共通感染症があります！

## 皮膚糸状菌症



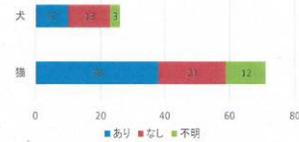
「水ぶくれ、かさぶた」



「脱毛、かゆみ」

### 皮膚科の先生の声

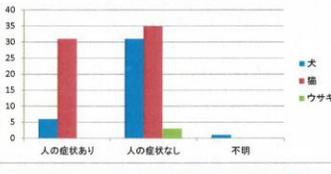
皮膚糸状菌患者が接触した動物に皮膚糸状菌様症状があった件数(対象:皮膚科医)



皮膚糸状菌症と診断された患者が接触した犬の38%、猫の54%に症状がありました。

### 動物病院の先生の声

皮膚糸状菌症と診断された動物との接触者(飼い主や家族等)の症状の有無



皮膚糸状菌症と診断された犬の16%、猫の47%の飼い主に症状がありました。

### ○飼い主もペットも、皮膚糸状菌症(ひふしじょうきんしょう)かも?!

皮膚糸状菌症は、皮膚に真菌(カビ)が感染することで発症する病気です。皮膚糸状菌は、人だけでなく、動物にも感染します。皮膚糸状菌にかかった動物と濃厚に接触すると感染することがあります。

### ○あなたのため、動物のために気をつけること。

- 動物の身の回りを清潔に！  
動物のブラッシング、つめ切り等はこまめに手入れを。  
タオルや敷物、水槽等は細菌が増殖しやすいのでこまめな洗浄が必要です。
- 過剰な触れ合いは控えましょう！  
口移しでエサを与えたり、スプーンや箸の共有は止めましょう。  
動物を布団に入れて寝ることも避けましょう。
- 動物にさわったあとは、必ず手洗いを！

人と動物の共通感染症対策に、公益社団法人福岡県医師会、  
公益社団法人福岡県獣医師会及び福岡県が連携して取り組んでいます。

上記のデータは、連携事業の一つである「福岡県共通感染症発生状況等調査」  
(平成27年～平成28年度)の結果から得られたものです。



公益社団法人 福岡県医師会

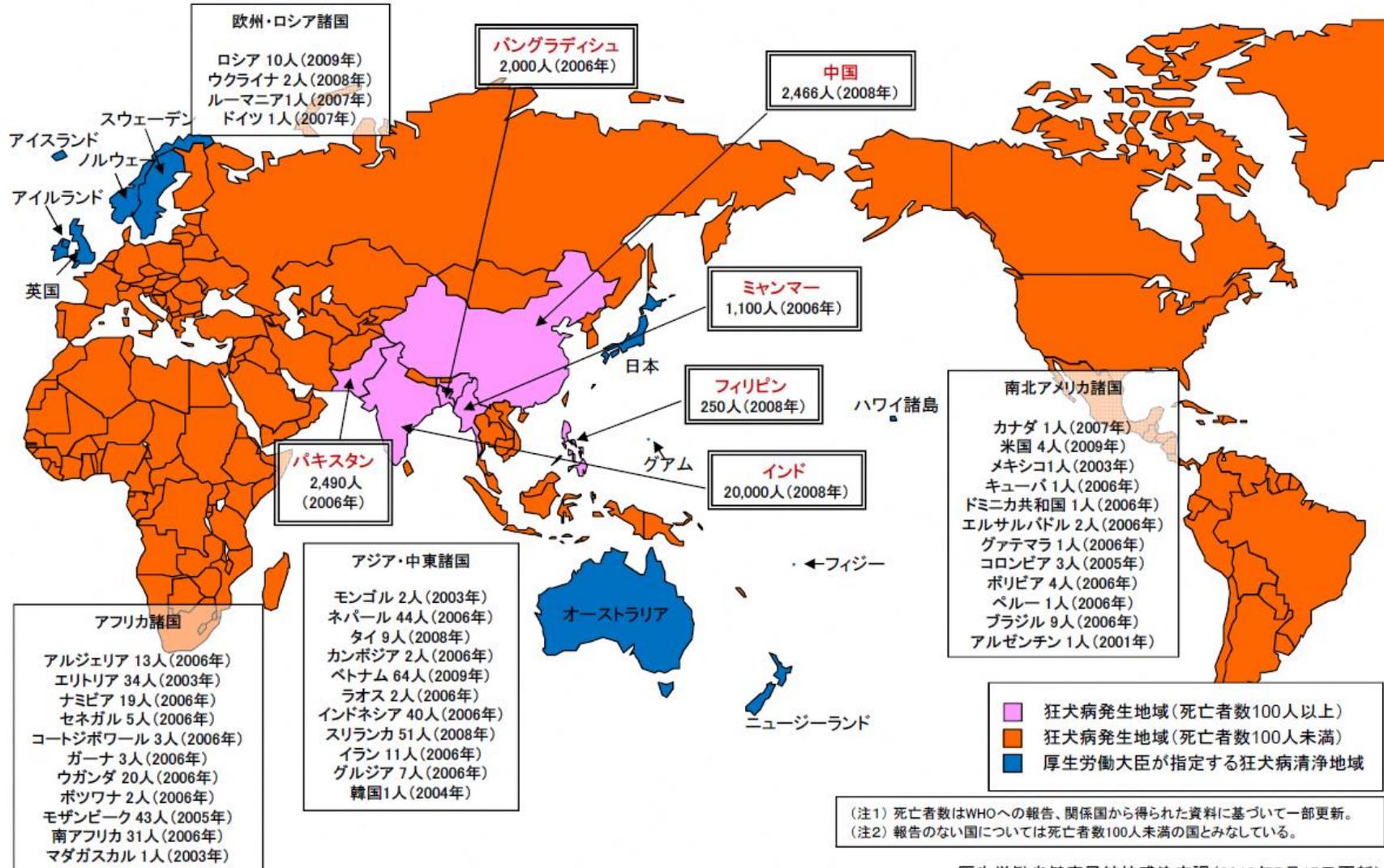


公益社団法人 福岡県獣医師会



福岡県

# 狂犬病の発生状況



厚生労働省健康局結核感染症課(2013年7月17日更新)

厚生労働省ホームページより引用

# 知っていますか？ 狂犬病のこと

■ 知っていた ■ 知らなかった ■ 無回答

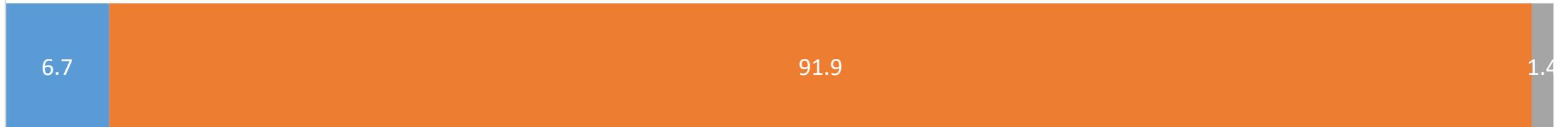
○ 狂犬病を発症すると、ほぼ100%死亡する



○ 狂犬病は、日本など一部の国々を除き、世界中で発生している



○ 世界で年間5万人以上が、狂犬病で亡くなっている



# 狂犬病発生時対応(実働訓練)

- 日時 平成29年2月16日 入場者数 122名
- 参加機関 県医師会、県獣医師会、保健所、警察署、市町村
- 実施内容
  - ・ シーン1：咬傷事故の発生から飼主の特定まで
  - ・ シーン2：咬傷犬の狂犬病鑑定及び飼主への聞取調査
  - ・ シーン3：致死処分決定から確定診断の依頼まで
  - ・ シーン4：現地対策班における狂犬病まん延防止対策



# 福岡県ワンヘルス連携シンポジウム

H26年度から開催してきた「人と動物の共通感染症シンポジウム」をH30年度から「ワンヘルス」にテーマを拡げ開催

【目的】 医療・獣医療等関係者の連携強化

ワンヘルスの理念を広く県民に周知

## ●H30年度 【テーマ】狂犬病

### ◆ 基調講演

演題：世界における狂犬病対策とワンヘルス・アプローチ  
国立感染症研究所獣医学部第二室長 井上智先生

### ◆ パネルディスカッション

テーマ：台湾、韓国、日本における狂犬病の現状とワンヘルス  
パネラー：医師、獣医師（日本、台湾、韓国）、行政（福岡県）



## ●R1年度 【テーマ】環境の変化（外来生物、生物多様性等）に伴う感染症について

◆基調講演（講師 国立環境研究所 五箇公一先生）

### ◆ パネルディスカッション

テーマ：「人と動物の共通感染症を考える～蚊やダニが媒介する感染症の実態～」  
パネラー：医師、獣医師、研究者（五箇先生）、検疫所（厚生労働省）、行政（福岡県）

# ワンヘルスフェスティバル2020



2020年10月3日 九州芸文館

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から関係者のみの参加限定(展示を除く)

【目的】ワンヘルスの考えを県民により身近に感じ、理解してもらう

酒井 日本獣医師会顧問らによる3つの講演 を WEB配信  
はかた地どりを使った食育ワークショップ  
セラピー犬との語らい体験、セラピー犬とお散歩  
ワンヘルスに関する展示 など



10月5日 朝日新聞



ワンヘルスに関する展示



食育ワークショップ

# 福岡県“One Health”国際フォーラム2021

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を踏まえ、「ワンヘルス」に係る課題を各分野の関係者で共有し、世界へ発信する場として開催。

## 基調講演

- 「世界における新型コロナウイルス感染症の現状と対策」 茅野医官 (WHO 健康開発総合研究センター)
- 「ワンヘルスの観点からみた新型コロナウイルス感染症の現状と対策」 横倉名誉会長  
(公益社団法人 日本医師会)
- 「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえたワンヘルスの今後の展望」 藏内会長  
(公益社団法人 日本獣医師会)

## 特別講演

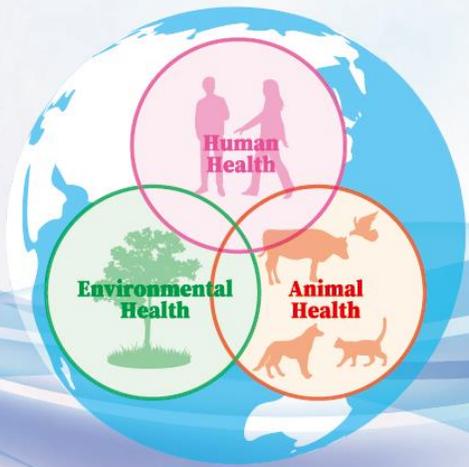
- 「新型コロナウイルス:これまでにわかったこと」 河岡 感染症国際研究センター長  
(東京大学医科学研究所)
- 「新型コロナウイルス感染症に関する現状と課題」 大曲 国際感染症センター長  
(国立国際医療研究センター)

## 分科会

- (1) 人と動物の共通感染症分科会
- (2) 薬剤耐性(AMR)対策分科会
- (3) ワンヘルスの取組み分科会

国内外33名の専門家が、  
30の講演、3つの総合討論、2つの意見交換に参加

# 福岡県 "One Health" 国際フォーラム 2021 オンライン開催



ライブ配信

2021年1月30日(土) 13:00 配信開始



↑視聴はHPから

場所

福岡国際会議場から生配信

ライブ配信プログラム

福岡県One Health国際フォーラム 検索

開会式

基調講演1 「世界における新型コロナウイルス感染症の現状と対策」

茅野 龍馬 (世界保健機構(WHO)健康開発総合研究センター医官)

基調講演2 「ワンヘルスの観点からみた新型コロナウイルス感染症対策の現状と課題」(仮)

横倉 義武 (公益社団法人 日本医師会 名誉会長)

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえたワンヘルスの今後の展望」(仮)

藏内 勇夫 (公益社団法人 日本獣医師会 会長)

オンデマンド配信

2021年1月30日(土) 18:00配信開始



音声コード  
(Link-Voice)

オンデマンド配信プログラム

特別講演 「新型コロナウイルス:これまでにわかったこと」

河岡 義裕 (東京大学医科学研究所 ウイルス感染分野 教授  
感染症国際研究センター長)

「新型コロナウイルス感染症に関する現状と課題」

大曲 貴夫 (国立国際医療研究センター 国際感染症センター長)

[分科会]

(1)人と動物の共通感染症分科会

新興・再興共通感染症に関するセッション

講演1「2003年に流行したSARSの基礎知識と感染対策」  
渡邊 浩(留米大学医学部 感染症制御学講座 主任教授)

講演2「MERS SARSについて」  
神谷 亘(群馬大学大学院医学系研究科 生体防御学講座 教授)

講演3「人畜共通感染症とワンヘルス-エボラ出血熱の最新の知見-」  
奥村 敦(アメリカ合衆国 アメリカ国立アレルギー・感染症  
研究所(NIAID) ロッキーマウンテン研究所 ウイルス学研究室)

講演4「デング熱ワクチン開発の現状と課題」  
Moi Meng Ling(長崎大学 獣帯医学研究所 教授)

講演5「デング熱国内流行リスクと実験室診断法」  
高崎 智彦(神奈川県衛生研究所 所長)

講演6「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に対する治療・予防法開発」  
西條 政幸(国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長)

講演7「SFTSウイルスの増殖及び病原性発現のメカニズムを  
標的とした新しい治療戦略の開発に関する研究」  
海老原 秀喜(アメリカ合衆国 メイヨークリニック  
Department of Molecular Medicine)

講演8「台湾におけるSFTSウイルス感染症の現状」  
Wei-Li Hsu(台湾 国立中央大学 微生物及び公衆衛生学研究所)

講演9「狂犬病-この忘れ去られた死の病と最新の知見-」  
西園 晃(大分大学医学部 微生物学講座 教授)

講演10「タイにおける狂犬病の状況-克服政策とその実施」  
Thanmaporn Phichitrasilp  
(タイ カセサート大学 獣医科学部)

講演11「新型コロナウイルス感染症の治療薬に関する現状と課題」  
島海 互(株式会社パナック 創薬本部 研究開発部長)

感染症に対するサーベイランスに関するセッション

[テーマ]野生動物由来の感染症に対するサーベイランスの現状と課題

(座長) 岡部 貴美子  
(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所生物多様性研究拠点長)

講演1「野生動物を介したマダニ媒介感染症の拡大」  
前田 健(国立感染症研究所 獣医科学部 部長)

講演2「マダニ体内における病原体の存在様式から感染時期を探る」  
矢野 泰弘(福井大学医学部 病態医学講座 動物学領域 助教)

講演3「野生動物由来感染症の統合的管理の試み」  
岡部 貴美子  
(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所生物多様性研究拠点長)

講演4「新興感染症と生態系危機」  
五箇 公一(国立国際医療研究センター 生体システム研究センター 生体リスク評価・対策研究室 室長)

総合討論

オンデマンド配信プログラム

(2)薬剤耐性(AMR)対策分科会

[テーマ]薬剤耐性(AMR)対策に関する現状と課題

(座長) 浅井 鉄夫(岐阜大学大学院連合獣医学研究科 教授)

講演「わが国のAMR対策-これまで・これから-」  
菅井 基行(国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター長)

講演「One Healthの視点からみた動物由来薬剤耐性菌の現状」  
臼井 優(鹿児島大学獣医学部 獣医学類 食品衛生学ユニット 准教授)

総合討論

[テーマ]国際機関における取組み

講演「西太平洋地域における薬剤耐性と闘うための行動を加速する枠組み」  
Socorro Escalante (WHO西太平洋地域事務所)

(3)ワンヘルスの取組み分科会

[テーマ]医療系・獣医療系大学における取組み

講演1「長崎大学における人材育成の新たな取組みについて  
Global HealthからOne HealthそしてPlanetary Healthへ」  
有吉 紅也(長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野 教授)

講演2「山口大学における医学・獣医学連携のワンヘルス研究拠点」  
度会 雅久(山口大学 共同獣医学部 獣医公衆衛生学研究室 教授)

講演3「One Healthに貢献する博士人材育成する大学院教育」  
堀内 基広(北海道大学大学院獣医学研究科 獣医衛生学教室 教授)

[テーマ]国際機関における取組み

講演「アジア太平洋地域におけるOIEワンヘルス活動」  
Lesa Thompson  
(国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所)

[テーマ]看護師、理学療法士、作業療法士、  
言語聴覚士によるワンヘルスに関する意見交換  
「医療専門家からのワンヘルス活動への提言  
~ワンヘルスバスターに参加して~」

(座長) 今村 亜子(NPO法人ことばとリレーションシップの会)

講演1「Nursing Now -ナイチンゲールが説く自然治療カー-」  
大和 日美子(公益社団法人 福岡県看護協会 会長)

講演2「One Healthと理学療法」  
松崎 哲治(公益社団法人 福岡県理学療法士会 副会長)

講演3「ワンヘルス 作業療法士の視点から」  
竹中 祐二(公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長)

講演4「言語聴覚士からみたワンヘルス」  
吉永 明史(一般社団法人 福岡県言語聴覚士会 理事)

意見交換

[テーマ]市民とワンヘルス  
~ワンヘルスを分かりやすく伝えるためには~  
えっ!これもワンヘルス

(座長) 芝田 良倫(一般社団法人 ワン・ヘルス・クリエイツ)

講演1「環境教育とワンヘルス」  
神田 浩史(NPO法人 泉京・垂井 副代表理事)

講演2「センダン:森・木材・家具の循環の仕組みづくり」  
植木 正明(株式会社 ウエキ産業 代表取締役 会長)

講演3「災害救助&治療/療育に貢献する愛玩動物たち」  
岡 武(認定NPO法人 日本レスキュー協会 事務局長)

講演4「遺贈:高齢者とペットの幸せな関係づくり」  
藤野 善孝(認定NPO法人 ビーザボネット 副理事長)

意見交換

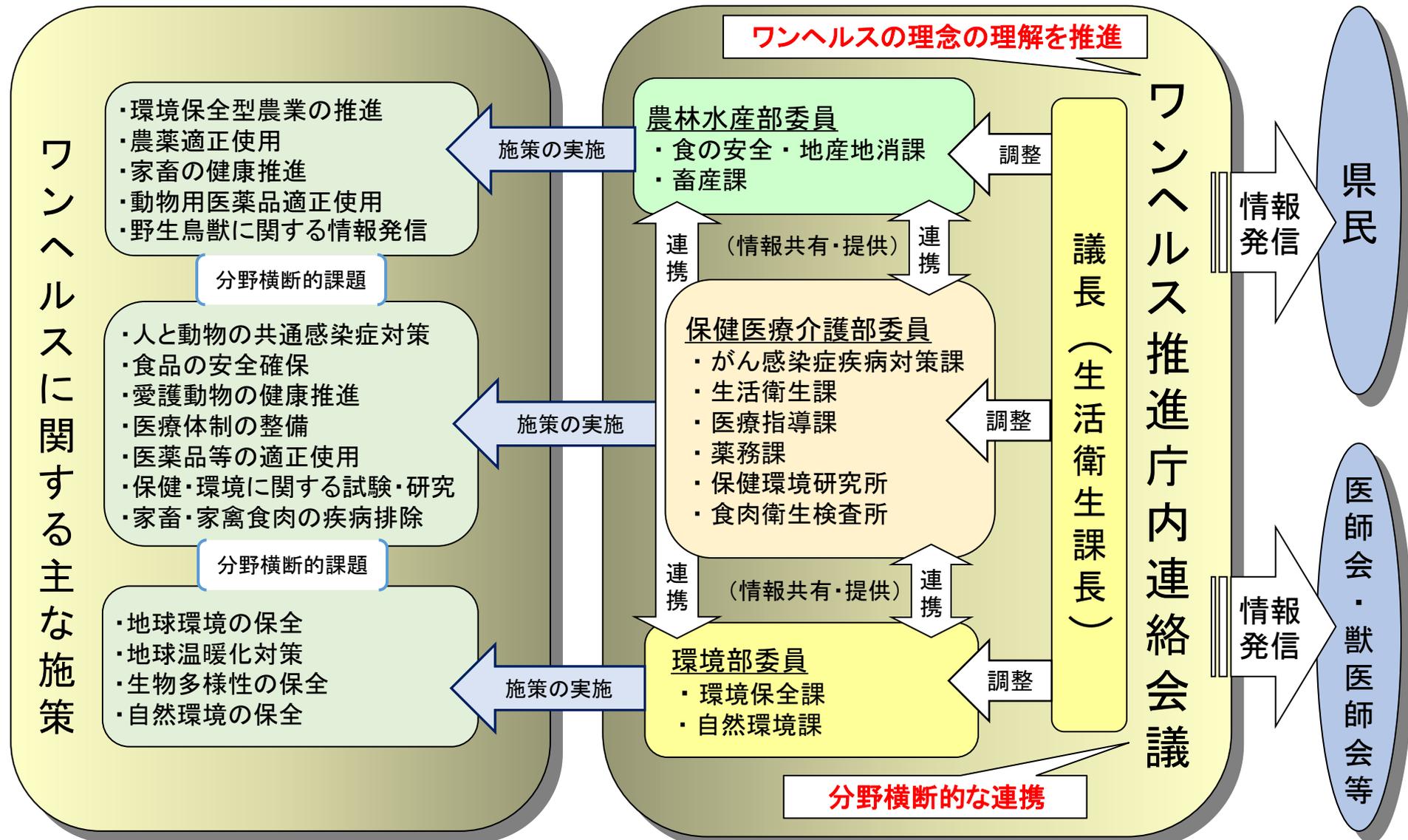


# 福岡県ワンヘルス推進基本条例

(令和3年1月5日公布・施行)

- ワンヘルスの理念に沿って、県や市町村、医師や獣医師、医療関係団体が果たす役割
  
- ワンヘルスを実践していくための基本方針
  - ・人と動物の共通感染症対策
  - ・薬剤耐性菌対策(薬剤の適正使用と管理)
  - ・環境保護
  - ・人と動物との共生社会づくり
  - ・健康づくり
  - ・環境と人と動物のより良き関係づくり
  
- ワンヘルスを実践していくための拠点形成等

# 「福岡県“One Health”推進庁内連絡会議」の設置（平成30年度） （3部8課2所）



# 福岡県における“One Health”推進体制の構築について

